



保健師 最前線

目指すゴールは同じ



城陽市

さわ なおこ
澤 尚子さん

「長年勤めていますので成人、母子保健などほとんどの業務は経験しています」。気負うこともなく、にこやかに笑った。ベテラン保健師さんのキャリアを感じた。介護保険制度の準備段階から約6年間、要介護（支援）の認定業務にも携わった。今は、特定健診・健康診査や肺がん検診などの業務を担当している。

城陽市の特定健診の受診率（平成28年度）は45・5%、特定保健指導の実施率（同）は38・1%と府内自治体ではかなり高い。「医療機関が協力的なこともあって『基本健診』のころから受診率はいいほうなんです。ただ特定健診の費用が無料化になった平成27年度をピークに受診率が少しずつ下がってきているのが懸念事項です」と課題を指摘した。

働き盛りの40〜50歳代の未受診者を対象に昨年、受診勧奨も兼ねて電話による実態調査を実施した。「一番受診していただきたい年代層なんです。みなさん忙しくて電話に出いていただけの方は少なかったのが実情です」と打ち明けてくれた。ちよつと間を置き「受診率の向上が常に問われるのは理解できるんです。毎年、いろんな手立てを打つように頑張っているんですが、ただアイデアもそろそろ煮詰まっ

ているような感じもするんです」。自治体保健師さんらが抱える共通の悩みでもあり、本音だろう。

それだけに医療、保健、介護といった担当課間の連携と協力が何より大切だと言う。「城陽市の場合、他市と比べ糖尿病の方が多いといった特徴的な疾患がないんですね。逆にいえばデータヘルス計画を作る際などはターゲットが絞りにくいわけです。目指すべきゴールは同じですので、課題解決に向け国保部門と保健部門が一緒になって知恵を絞り協力して、特定健診・特定保健指導実施計画やデータヘルス計画を作成しています」

本会への要望も聞いてみた。「システムで作成した特定健診等の結果データを使いこなすのがちよつと難しいんですね。担当者が人事異動で交代することも考慮いただき、可能な限り特定健診等データ管理システムの研修会を定期的に開いていただけるとありがたいです。ご遠慮なさらず、要望等をおあげください。

「保健師の仕事は多くの市民さんと関わられるおもしろい職業だと思っんです。ずっと現場でやってきましたのでこれからも現場でお役にたきたい」。現場という言葉に重みがあった。